



*今月は「アンダーソン・クーパー360°」に代わり、「ファリード・ザカリアGPS」を掲載いたします

Germany after Angela

名宰相、去る

首相交代でどう変わる？

“メルケル後”のドイツと欧州秩序

2021年12月8日をもって、16年の長きにわたってドイツ首相を務めてきたアンゲラ・メルケル氏がその職を辞し、官邸を後にした。その任期において、移民危機や欧州経済の弱体化、英国のEU離脱など数多くの難事が降りかかる中、ドイツのみならず欧州全体の安定化に果たした彼女の貢献は大きい。新政権は、史上初となる3党による連立で、首相の座には社民党のオラフ・ショルツ氏が就いた。新生ドイツの、そして国際社会の今後について、独ベテランジャーナリストが予想する。



番組ホスト

ファリード・ザカリア

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イェール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」編集長、ニュース週刊誌「ニューズウィーク」の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。

ゲスト

タニット・コッホ

ドイツのジャーナリスト。1977年、ドイツ・コンスタンツ生まれ。ボンで育ち、15歳のときにアイルランド・ダブリンの寄宿学校セント・コロンバス・カレッジに留学。ドイツに帰国後、チュービンゲン大学で政治学と法学を学ぶ。2016年から2年間、日刊タブロイド紙として欧州最大手の「ビルト」の編集長を務めた。



*お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

77 なぜドイツでは超党派の協力関係が機能するのか



Fareed Zakaria Angela Merkel

left office just as she came in: to the beat of her own drum—or, more exactly, to the beat of a military band playing a song written by an East German punk rocker. Now, it is Olaf Scholz’s turn to run Germany. He has a tough act to follow.

Joining me is Tanit Koch, a columnist for the *New European* and the former editor-in-chief of Germany’s top-selling paper, *Bild*.

Tanit, pleasure to have you on. First, explain something to me: In an age of polarization and sharp divisions between parties—look at the United States or Britain or even France—in Germany, what you’re seeing is something remarkably bipartisan or nonpartisan. Scholz was in Angela Merkel’s government, even though of the opposition party; it was a coalition. He was a trusted adviser. She, in some ways,

leave office:
(要職を) 退任する
to the beat of one’s own drum:
自分流に
military band:
軍楽隊
punk rocker:
パンクロッカー
one’s turn:
～の番
a tough act to follow:
まねできないほど素晴らしい出来栄・業績

The New European:
ニュー・ヨーロピアン ▶週刊新聞。
editor-in-chief:
編集長、編集主幹
top-selling:
最もよく売れている、ベストセラーの

polarization:
分極化、分裂
sharp division:
際立った対立、明確な分断
remarkably:
著しく、際立って
bipartisan:
2党連立の、超党派の
nonpartisan:
無党派の、党に属さない
opposition party:
野党
coalition:
連立、連合
trusted:
信頼されている
adviser:
顧問、助言者
in some ways:
ある意味で

ファリード・ザカリア アンゲラ・メルケル氏は、登場したときと同じように退場しました、わが道を行く、彼女らしい足取りで——正確に言うと、東ドイツのパンクロッカーの曲を演奏する軍楽隊のビートに乗って。これからドイツのかじを取るのにはオラフ・ショルツ氏となります。前任者の後を継ぐのは容易なことではありません。

今日のゲストはタニット・コッホ氏、ニュー・ヨーロピアン紙のコラムニストで、ドイツで発行部数第1位の新聞「ビルト」の元編集長です。

タニットさん、本日はご出演いただき光栄です。まず、教えてください。この党派間での分極化や鋭い対立の時代に——アメリカでもイギリスでも、フランスですらそうですが——ドイツでは、信じられないほど超党派的、あるいは党派色のない協力関係が続いています。ショルツ氏は野党所属でありながら、アンゲラ・メルケル政権の閣僚でした。連立政権でしたから。彼は顧問として信頼されていました。メ